

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成28年12月】

■調査概要（データ対象期間：平成28年12月1日～12月31日）

- 調査期間：平成29年1月1日～1月17日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査
- 回収状況：建設業23企業、製造業20企業、卸売業16企業、小売業31企業
飲食業15企業、サービス45企業（運輸、不動産仲介業を含む）
<合計150企業>
- 調査項目：12月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI・水準DIともにマイナス幅が縮小

1. 業況判断

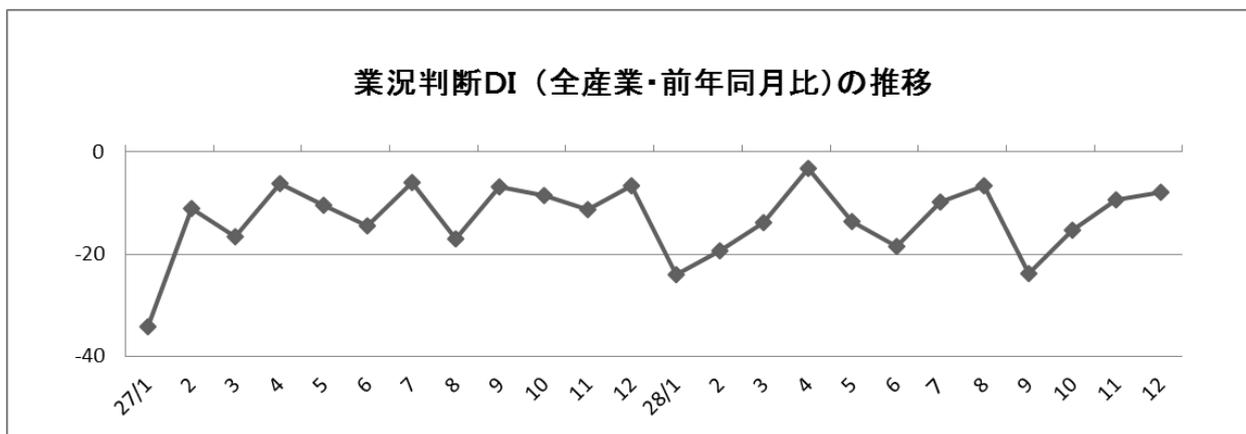
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲9.4）よりマイナス幅が1.4ポイント縮小し、▲8.0となった。業種別では、小売業、製造業はマイナスからプラスに転じた。飲食業はマイナス幅が縮小した。サービス業、卸売業はプラスからマイナスに転じ、建設業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲18.6）よりマイナス幅が5.9ポイント縮小し、▲12.7となった。業種別では、小売業はマイナスからプラスに転じた。飲食業、製造業、サービス業はマイナス幅が縮小した。建設業、卸売業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	13.3 (15.3)	65.4 (60.0)	21.3 (24.7)	↗ ▲ 8.0 (▲ 9.4)	14.0 (10.7)	59.3 (60.0)	26.7 (29.3)	↗ ▲ 12.7 (▲ 18.6)
建設業	0.0 (12.5)	60.9 (62.5)	39.1 (25.0)	↘ ▲ 39.1 (▲ 12.5)	4.3 (4.2)	60.9 (66.6)	34.8 (29.2)	↘ ▲ 30.5 (▲ 25.0)
製造業	25.0 (18.2)	55.0 (45.4)	20.0 (36.4)	↗ 5.0 (▲ 18.2)	25.0 (22.7)	45.0 (40.9)	30.0 (36.4)	↗ ▲ 5.0 (▲ 13.7)
卸売業	0.0 (25.0)	81.2 (56.2)	18.8 (18.8)	↘ ▲ 18.8 (6.2)	6.3 (6.3)	56.2 (74.9)	37.5 (18.8)	↘ ▲ 31.2 (▲ 12.5)
小売業	25.8 (10.0)	71.0 (66.7)	3.2 (23.3)	↗ 22.6 (▲ 13.3)	22.6 (6.7)	58.0 (63.3)	19.4 (30.0)	↗ 3.2 (▲ 23.3)
飲食業	20.0 (7.1)	40.0 (50.0)	40.0 (42.9)	↗ ▲ 20.0 (▲ 35.8)	20.0 (0.0)	33.3 (50.0)	46.7 (50.0)	↗ ▲ 26.7 (▲ 50.0)
サービス業	8.9 (18.2)	71.1 (65.9)	20.0 (15.9)	↘ ▲ 11.1 (2.3)	8.9 (15.9)	75.5 (61.4)	15.6 (22.7)	↗ ▲ 6.7 (▲ 6.8)

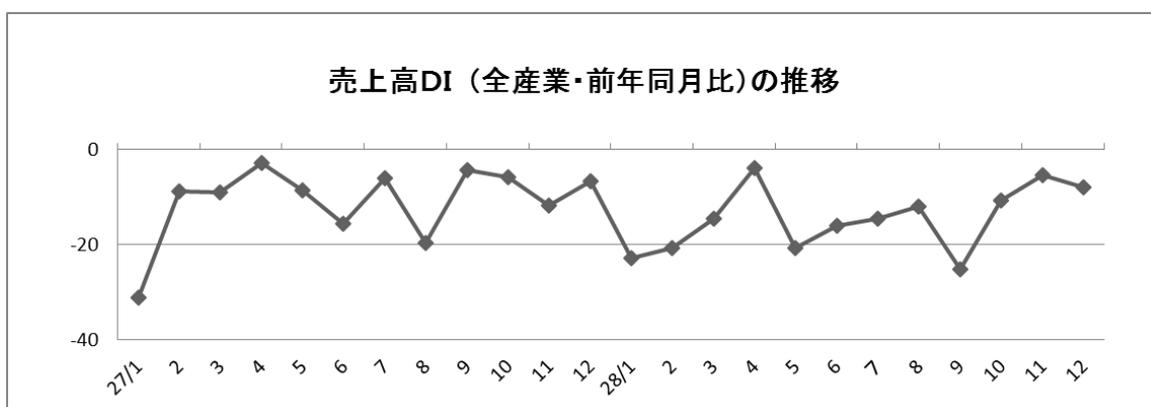
()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲5.3）よりマイナス幅が2.7ポイント拡大し、▲8.0となった。業種別に見ると、小売業はマイナスからプラスに転じ、製造業はマイナスから0になった。飲食業はマイナス幅が縮小した。サービス業、卸売業はプラスからマイナスに転じ、建設業はマイナス幅が拡大した。

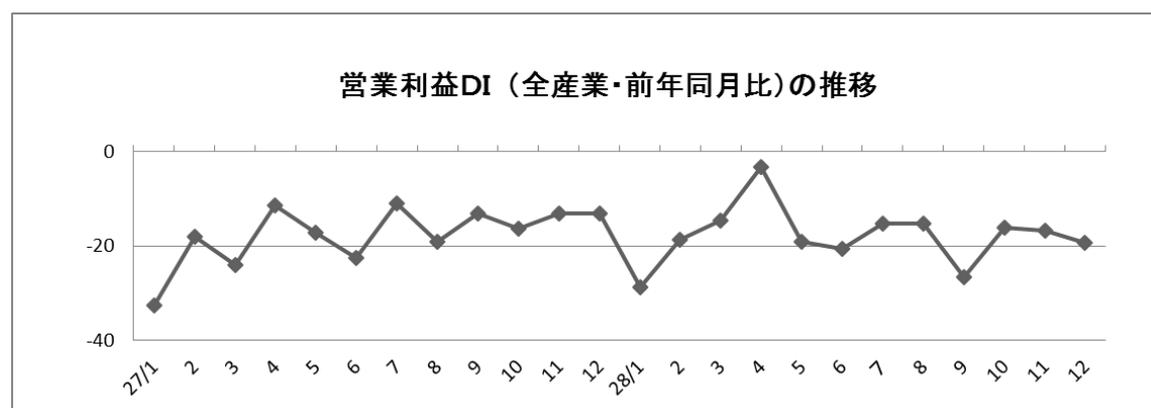


【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	27年12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全 体	▲ 6.6	▲ 22.7	▲ 20.7	▲ 14.5	▲ 3.9	▲ 20.6	▲ 16.0	▲ 14.6	▲ 12.0	▲ 25.1	▲ 10.7	▲ 5.3	▲ 8.0
建 設 業	▲ 16.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 16.7	▲ 12.0	▲ 28.0	▲ 20.8	0.0	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 21.7	▲ 12.5	▲ 39.2
製 造 業	0.0	▲ 20.8	▲ 19.1	▲ 9.5	4.4	▲ 28.6	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 4.5	0.0
卸 売 業	▲ 21.5	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 15.4	▲ 25.0	7.1	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 15.4	▲ 23.1	6.2	▲ 18.8
小 売 業	▲ 12.5	▲ 43.7	▲ 34.3	▲ 18.1	2.9	▲ 17.1	▲ 24.2	▲ 17.7	▲ 18.2	▲ 29.4	▲ 8.6	▲ 13.4	16.1
飲 食 業	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 38.5	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 35.8	▲ 33.4	▲ 5.5	▲ 43.7	▲ 18.8	▲ 28.6	▲ 13.3
サービス業	4.3	▲ 10.3	▲ 4.7	▲ 11.4	0.0	▲ 7.0	▲ 13.3	▲ 10.9	▲ 9.1	▲ 25.0	5.0	6.8	▲ 6.7

3. 営業利益DI（前年同月比）

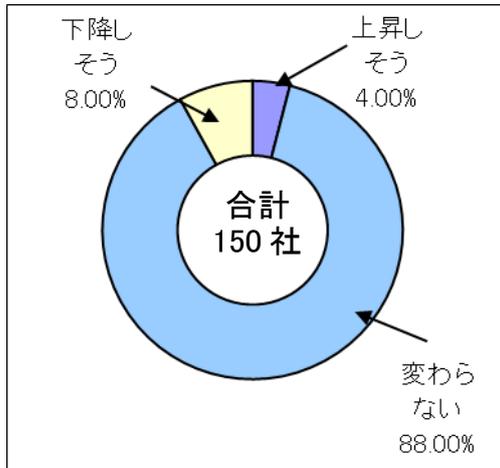
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲16.7）よりマイナス幅が2.6ポイント拡大し、▲19.3となった。業種別に見ると、小売業はマイナスから0になり、製造業、飲食業はマイナス幅が縮小した。サービス業はプラスからマイナスに転じ、建設業、卸売業、はマイナス幅が拡大した。



【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

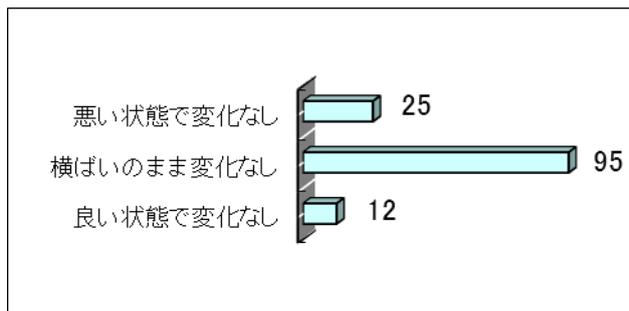
	27年12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全 体	▲ 13.2	▲ 28.7	▲ 18.7	▲ 14.5	▲ 3.2	▲ 19.2	▲ 20.7	▲ 15.2	▲ 15.3	▲ 26.5	▲ 16.0	▲ 16.7	▲ 19.3
建 設 業	▲ 32.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 29.1	▲ 4.0	▲ 24.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 21.7	▲ 29.2	▲ 43.5
製 造 業	▲ 5.3	▲ 25.0	▲ 9.6	▲ 9.5	▲ 8.7	▲ 14.3	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 30.5	▲ 30.5	▲ 22.7	▲ 10.0
卸 売 業	▲ 14.3	▲ 28.6	31.3	13.3	30.8	▲ 16.6	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 23.1	▲ 7.7	▲ 6.2	▲ 25.0
小 売 業	▲ 9.4	▲ 34.3	▲ 34.4	▲ 18.1	5.9	▲ 22.8	▲ 27.3	▲ 8.9	▲ 15.1	▲ 29.4	▲ 14.3	▲ 23.3	0.0
飲 食 業	▲ 25.0	▲ 31.2	▲ 46.2	▲ 20.0	▲ 33.4	▲ 46.7	▲ 42.9	▲ 46.6	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 42.9	▲ 33.4
サービス業	▲ 4.3	▲ 17.9	▲ 4.6	▲ 13.7	▲ 6.7	▲ 6.9	▲ 17.8	▲ 13.0	▲ 15.9	▲ 15.9	0.0	2.3	▲ 17.8

◇ 向こう3ヶ月の見通し ◇



○平成29年1月～平成29年3月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ1.33ポイント減少し4.00%、「下降しそう」が3.33ポイント増加し8.00%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲4.4)、製造業(▲5.0)、卸売業(▲6.3)、小売業(0.0)、飲食業(▲26.7)、サービス業(2.2)であった。

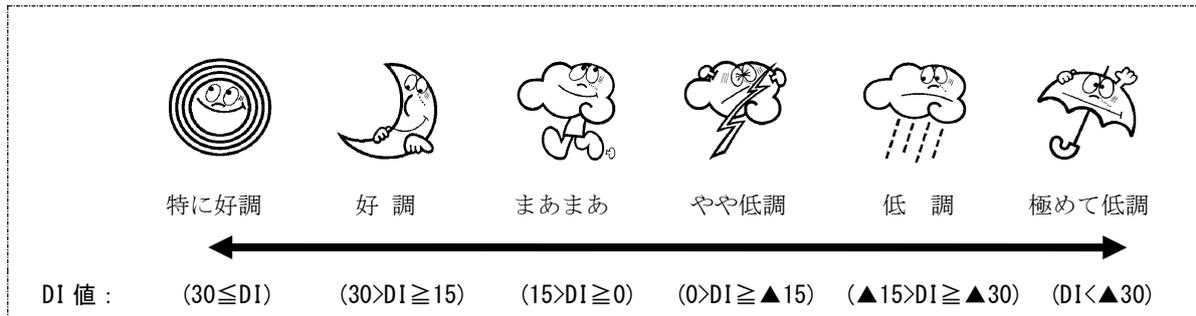
➡「上昇しそう」では、「大口の契約があるため」(製造業)、「車両販売が好調なため」「既存のプロジェクトについて回収が見込めるため」、「例年1月は売上が回復するため」、「年末に一棟アパートの売買が成立したため」(サービス業)といった声が寄せられた。



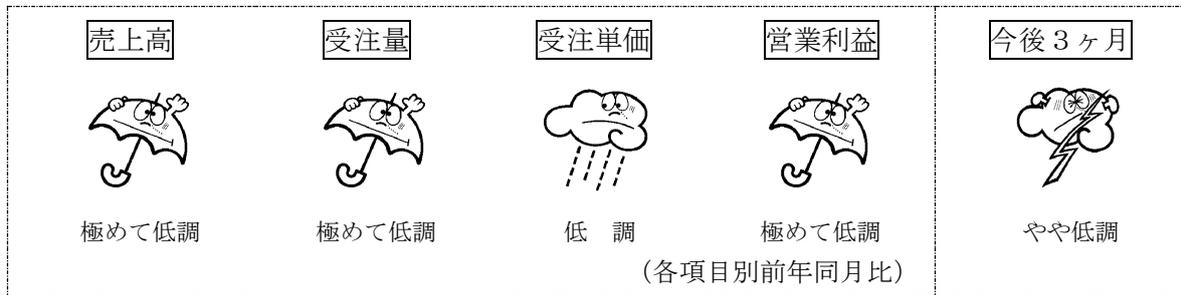
➡「下降しそう」では、「今後3カ月は大きな売上に繋がるような案件がないため」、「受注量が少ないため」(建設業)、「1月、2月は例年低調なため」(製造業)、「薬価改定の影響のため」(卸売業)、「宴会の予約がないため」、「閑散期のため」、「12月が良すぎたため」(飲食業)、「天候によるため」、「雪不足の影響でスキー場に来るお客様のキャンセルが多かったため」、「年度末で仕事の発注が終わるため」(サービス業)といった声が寄せられた。

業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	27年12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 16.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 16.7	▲ 12.0	▲ 28.0	▲ 20.8	0.0	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 21.7	▲ 12.5	▲ 39.2
受注量	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 44.0	▲ 16.7	▲ 16.0	▲ 28.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 38.1	▲ 4.7	▲ 13.1	▲ 20.8	▲ 39.1
受注単価	▲ 8.0	▲ 20.0	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 16.0	▲ 16.0	▲ 8.3	4.4	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 26.1	▲ 16.6	▲ 21.8
営業利益	▲ 32.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 29.1	▲ 4.0	▲ 24.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 21.7	▲ 29.2	▲ 43.5
見通し	▲ 4.0	▲ 12.0	8.0	0.0	▲ 4.0	▲ 4.0	12.5	4.3	▲ 4.8	9.5	▲ 8.7	▲ 4.1	▲ 4.4

<経営者の目・見方・etc>

鉄工

- ・東京オリンピックを控えて建設業は繁忙期を迎えると思っていたが、都政の停滞や技術者不足により、期待していたような状況になっていないと感じる。日本銀行の金融緩和やアベノミクスも一部の企業に富が集中するだけの施策になっている感じがする。均衡ある国土の発展に繋がるような適切な富の再分配を期待したい。
- ・来年度の見込みが不透明であり、各社によってばらつきがある。過度の円高が進むと、資材の価格が上昇することが予想される。
- ・平成29年は、いよいよ東京オリンピック関連事業がスタートする。首都圏を中心に相次ぐ建設ラッシュが見込まれ、今年の営業は首都圏が中心となりそうである。

管工事

- ・物価及び、仕入単価が上がってきているが受注単価はそのままであり、このような状態だと地方業者はいつまでたってもよくなる。

電気工事

- ・静かな年末だったので、新しい年に期待したい。

建築工事

- ・今年は件数は昨年並みながら、単価が低く売上高は伸びなかった。

土木工事

- ・取引先の手持ち工事の減少に伴い、3月の年度末までは前年と比較し、受注量はかなり落ち込む見通しである。
- ・アメリカが内需拡大指向を強めている現在、日本も輸出産業はGDP全体の15%程度の内需型の国である。今後も国内産業を重視し、内需拡大の政策を進めるべきであると考える。

2. 製造業



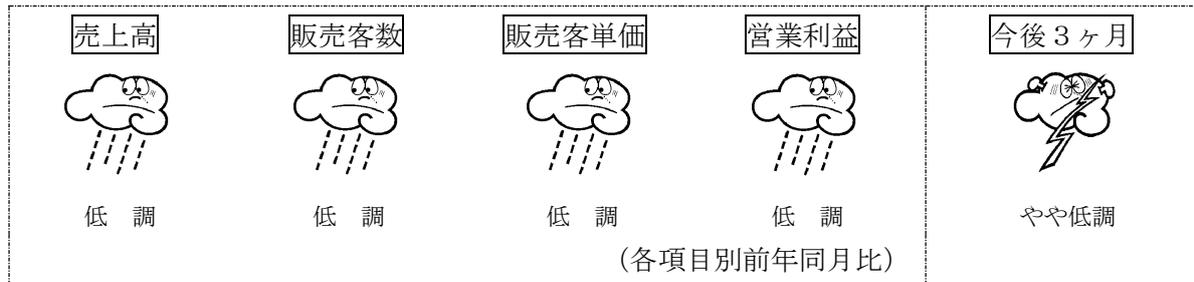
【項目別DIの推移】

	27年12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	0.0	▲ 20.8	▲ 19.1	▲ 9.5	4.4	▲ 28.6	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 4.5	0.0
受注量	▲ 5.3	▲ 12.5	▲ 19.1	▲ 4.8	▲ 4.4	▲ 28.6	0.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 39.1	▲ 26.1	▲ 13.7	▲ 10.0
受注単価	▲ 21.1	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 28.5	▲ 17.4	▲ 14.2	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 27.3	▲ 10.0
営業利益	▲ 5.3	▲ 25.0	▲ 9.6	▲ 9.5	▲ 8.7	▲ 14.3	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 30.5	▲ 30.5	▲ 22.7	▲ 10.0
見通し	▲ 15.8	4.2	14.3	▲ 33.3	8.7	4.7	▲ 5.0	10.0	▲ 10.0	▲ 8.7	4.4	0.0	▲ 5.0

<経営者の目・見方・e t c>

- 精密機械
 - ・案件はあるが、決定には至らず様子見の状態である。
- 印刷
 - ・全体的に横ばいの状況であるが、出版業界から聞こえてくる状況はあまり良くない。営業の方をより強化していきたい。
- 金属塗装
 - ・昨年比で多少良くなったが、受注、売上ともに横ばいであった。今後は米国、中国の状況が心配で、円安がいつまで続くかなど先行きが不安である。
- 紙器
 - ・年末の売上が、昨年比に増加した。
- 酒類
 - ・暮れのお歳暮商戦で、いつもの月より清酒の動きが良かった。しかし法人関係のお歳暮等の減少が顕著なため、個人向けの商品に力を入れる必要がある。清酒に関心も向いてきているので、それを追い風として伸ばしていきたいが、米国の動向次第で、日本経済がどれほど影響を受けるか未知数な部分が多く、先行きが見えてこない。

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	27年12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 21.5	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 15.4	▲ 25.0	7.1	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 15.4	▲ 23.1	6.2	▲ 18.8
販売客数	▲ 28.6	▲ 35.7	▲ 6.3	▲ 6.7	▲ 23.1	▲ 16.7	▲ 7.2	▲ 30.8	▲ 14.3	▲ 15.4	▲ 23.1	▲ 6.2	▲ 25.0
販売客単価	▲ 21.5	▲ 42.9	0.0	0.0	▲ 7.7	▲ 16.7	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 7.7	0.0	6.3	▲ 18.8
営業利益	▲ 14.3	▲ 28.6	31.3	13.3	30.8	▲ 16.6	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 23.1	▲ 7.7	▲ 6.2	▲ 25.0
見通し	▲ 21.4	7.1	0.0	0.0	0.0	8.3	▲ 7.1	0.0	7.1	▲ 7.7	0.0	0.0	▲ 6.3

<経営者の目・見方・etc>

土産品

・年末だったため全般的に大きな動きはなかった。冬の観光シーズンがスタートする時期だが、大きな期待はできない。

金属製品

・11月に引き続き、原材料高騰による値上げの話題が中心となっている。高炉メーカーは、値上げに対し、依然強気の姿勢を崩しておらず、この状況はまだ1~2カ月は続く見込みである。

機械工具

・祝日と年末休日のため営業日が少なく、品物は動いたが苦戦した。雪が少なかったことは救いであった。

青果

・果物、野菜ともに入荷減、単価高のまま12月に突入し、年末の青果不足を心配したが、逆に荷動きが悪く、活気のない年末となった。特に12月下旬からは暖かく、例年の年末の雰囲気とはならなかった。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	27年12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 12.5	▲ 43.7	▲ 34.3	▲ 18.1	2.9	▲ 17.1	▲ 24.2	▲ 17.7	▲ 18.2	▲ 29.4	▲ 8.6	▲ 13.4	16.1
販売客数	▲ 9.4	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 24.2	▲ 3.0	▲ 11.4	▲ 24.2	▲ 11.8	▲ 6.1	▲ 29.4	▲ 5.7	▲ 23.3	0.0
販売客単価	▲ 15.7	▲ 15.7	▲ 37.5	▲ 9.1	0.0	▲ 22.8	▲ 18.1	▲ 17.7	▲ 12.1	▲ 23.6	▲ 22.9	▲ 20.0	6.4
営業利益	▲ 9.4	▲ 34.3	▲ 34.4	▲ 18.1	5.9	▲ 22.8	▲ 27.3	▲ 8.9	▲ 15.1	▲ 29.4	▲ 14.3	▲ 23.3	0.0
見通し	0.0	▲ 3.1	0.0	6.1	2.9	▲ 2.8	0.0	▲ 2.9	▲ 6.1	▲ 5.9	0.0	0.0	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

化粧品	・天候もよく、比較的平日の来店が多かった。化粧品ギフトや男性客のギフト購買が目立った月だった。
観光物産	・雪が少ないので、車の流れが多いと予想していたが、思っていたよりも大幅に少なかった。
住宅機器	・売上高が前年比125%のとても忙しい月となった。来年もこの調子を継続したい。
ショッピングセンター	・12月は年間最大のギフト需要月で、従来であれば月上旬から消費が盛り上がってきたが、年々そのタイミングが後ろにずれてきている。今年12月は後半の三連休に売上が集中したことで前年並みの売上は維持できたが、この傾向はますます顕著になると思われる。
陶磁器	・温暖傾向で天候の崩れもなく、人出の多い年末だった。恒例行事のように毎年同じプロモーションを展開してきたが、今年は試みにタイミングをずらして実施したところ、これまでとは異なる反応があった。まだまだ工夫の余地がありそうである。
パン	・最近ではクリスマス、年末のメリハリがなくなってきたように感じる。
生鮮食品	・昨年は年末に消費が集中し、仕入が足りずに失敗したので、今年は仕入を多めに用意した。31日まで天気が良く、暖かかったのが助かった。
おやき	・納品先の販売店の売れ行きが悪く、消費者の儉約志向が高まっていると感じる。
菓子	・観光客も減り、売上も伸びなかった。イオンモール松本が来年オープンするが、交通渋滞による観光客の減少が心配である。
印章	・年賀状印刷の注文は減る一方だが、宛名印刷も込みというサービスは今後増加することが予想される。 ・ロボット彫刻が業界を席卷しつつある中で、手彫りの技能者が、全国で表彰されている。

5. 飲食業



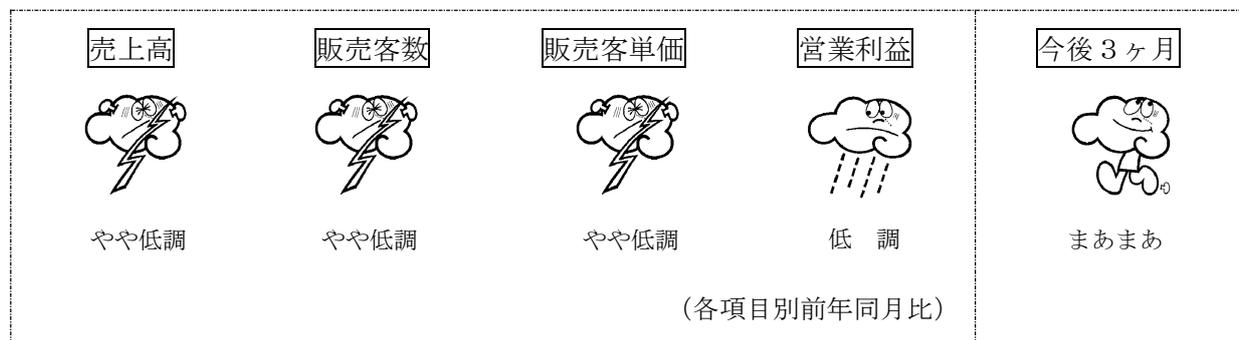
【項目別DIの推移】

	27年12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 38.5	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 35.8	▲ 33.4	▲ 5.5	▲ 43.7	▲ 18.8	▲ 28.6	▲ 13.3
販売客数	▲ 12.5	▲ 31.2	▲ 46.1	▲ 13.4	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 42.9	▲ 33.4	▲ 5.6	▲ 31.2	▲ 12.5	▲ 28.6	▲ 20.0
販売客単価	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 30.8	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 28.6	▲ 26.7	▲ 11.1	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 35.8	▲ 13.3
営業利益	▲ 25.0	▲ 31.2	▲ 46.2	▲ 20.0	▲ 33.4	▲ 46.7	▲ 42.9	▲ 46.6	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 42.9	▲ 33.4
見通し	▲ 25.0	6.2	15.4	▲ 6.6	0.0	▲ 20.0	7.2	6.6	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 12.5	0.0	▲ 26.7

<経営者の目・見方・e t c>

- | | |
|-------|--|
| 寿司 | <ul style="list-style-type: none"> ・忘年会、クリスマス、年越しなど、「行事」があるときの需要は堅調に増加傾向にあるが、その一方で平常時のフリーのお客様の足が鈍いのが最近の特徴である。今後も平常時の営業に注目し、取り組んでいきたい。 ・忘年会の予約が減少気味だったが、少人数の宴会が多かった。大晦日の売上は上々だった。 |
| そば | <ul style="list-style-type: none"> ・ランチタイムのお客様が少なかったが、夜の宴会で盛り返すことができた。来年はもっと厳しい年になることが予想されるが、お客様に美味しいと喜んでもらえるように精進していきたい。 ・12月前半はお客様の入りが悪かった。 |
| 郷土料理 | <ul style="list-style-type: none"> ・忘年会以外の予約が入り、良い結果となった。観光客はこれから3カ月特に減少していくことが予想される。常連の来客も控えめな状況が続いている。 |
| 仕出し料理 | <ul style="list-style-type: none"> ・月の前半は低調であったが、年末は新規のお客が増え、お客様からの注文も変わらずいただいた。新年に向けて気持ちをいれて頑張りたい。 |
| 料理 | <ul style="list-style-type: none"> ・忘年会シーズンだったが、お客様の動きが悪かった。 |
| レストラン | <ul style="list-style-type: none"> ・急激に宴会の予約の数が減ってきた。一般の企業は以前のように忘年会をしなくなったように感じる。市民の家計は相当苦しくなっているのではないかと。 |

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	27年12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	4.3	▲ 10.3	▲ 4.7	▲ 11.4	0.0	▲ 7.0	▲ 13.3	▲ 10.9	▲ 9.1	▲ 25.0	5.0	6.8	▲ 6.7
販売客数	2.1	▲ 23.1	▲ 2.3	▲ 6.8	▲ 2.3	▲ 11.7	▲ 15.5	▲ 8.7	▲ 4.5	▲ 22.7	0.0	4.6	▲ 11.1
販売客単価	4.3	▲ 23.0	0.0	▲ 2.2	4.5	9.3	▲ 4.4	▲ 4.4	4.5	0.0	▲ 2.5	6.8	▲ 2.2
営業利益	▲ 4.3	▲ 17.9	▲ 4.6	▲ 13.7	▲ 6.7	▲ 6.9	▲ 17.8	▲ 13.0	▲ 15.9	▲ 15.9	0.0	2.3	▲ 17.8
見通し	0.0	2.6	0.0	▲ 2.3	6.7	2.3	2.2	0.0	4.6	9.1	10.0	4.5	2.2

<経営者の目・見方・e t c>

- | | |
|------------------------|---|
| 自動車整備・
板金塗装
タクシー | <ul style="list-style-type: none"> ・いつになく暖かな12月だった。平地でも雪が少ないと仕事面にはプラス材料にならない。やはりいつも通りの季節でないと不安が強くなる。 ・忘年会シーズンであったが、前年と変わらない人の動きであった。寒さが増すにつれて燃料価格も上がってきた。 |
| 機械設計 | <ul style="list-style-type: none"> ・仕事量はあり、今は年度末の仕事の準備している状況である。来期の仕事も確保している。 |
| 専門学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・求職者支援訓練の募集定員が減少し、応募者数も低迷している。 |

ホテル	・宿泊は好調で、特に外国人客の入り良かった。宴会の売上はますますの好調だが、レストランは競合店が多く苦戦している。
温泉旅館	・全般的に悪い12月だった。降雪もなくスキー場利用した宿泊客は0だった。
ソフトウェア	・引き合いについては堅調と思われるが、都市圏からの多重請負という構造に変化はない。また人手不足と言われているが、顧客要件をシステム化できる人材、昨今の技術変化に追いつけるエンジニアが不足しているという状況である。
ペットサービス	・来店数、売上高ともに前年並みであった。来年も新メニューの導入で単価UPを図りたい。
介護サービス	・2017年4月以降、介護制度の改定により、少なからず経営状況が悪化することが予想される。
マナー講師	・今月は特に動きはなかったが、今後依頼が入ってくることが予想される。
保険代理店	・ゼロ金利政策の影響から、終身保険で販売が中止となった商品もあり、販売商品が限定されてきた。また、手数料率も低下傾向にある。

